

30分間研修レシピシート

研修内容	重機(=車両系建設機械)の危険を知る	
対象	職長・安責者、作業員 各業者がグループになる	人数
目的	重機の危険性を再認識させ、自衛のための対策を考えさせる	
使用ツール	記入用演習シート、重機作業計画書	
受講後どうなっ て欲しいか	(誰が) 職長・安責者、全員	(いつから) 明日から
	(どうなる) 重機作業の際、作業計画書に立入禁止範囲を書き、現場で実行する。	
大事なポイント (3つまで)	1	重機の危険性を再認識する。
	2	重機の死角をOPと周辺作業員全員が理解する。
	3	重機事故にならないための対策を実行する。
時間	内容	
5min	挨拶～研修内容目的とポイントの説明 前提と準備	
10min	<ul style="list-style-type: none"> ★ 事前に重機作業計画書を確認し、危険対策が十分かを確認しておく。 ★ 知っている、実行するは違う。OPとそれ以外の立場で知識も異なる。 ★ 今回は重機の中でも、車両系建設機械が中心。クレーン等は除く。 <p>1 重機事故はなぜ危険か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重機、特に車両系建設機械の例を挙げる。(ショベルカー、ブルドーザー等) → 今現場で使用しているものは何か。自社持込以外も含む。資料P2 ・重機による事故の代表的な型を見せ、G討議。資料P3 ・ひかれる、激突される、挟まれる → 死ぬことを確認。 <p>2 なぜ、近づくのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死亡リスクがあるのに近づく理由をG討議(資料P3) ・2～3人に意見を聞く。 ・大体、「近道」、「OPが分かっていると思った」、「接近してくるに気が付かない」等 	
15min	<p>3 死角を把握する 資料P4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重機作業中に接近する理由の1つは、重機の死角を把握していないこともある。 ・OPと手元作業員では、死角範囲の理解に差がある。 ・資料のイラストに死角範囲を書き込ませる。OPは後から書き加える ・死角を理解したら、今後どのようなことを注意するかを質問する。 	
20min	<p>4 接近を防ぐためには 資料P5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接触しないためには → 接近しない。 <p>そのための立入禁止を行うことと、合図者・誘導者が必要と強調。</p>	
25min	<ul style="list-style-type: none"> ・資料P6のイラストに立入禁止範囲を記入してもらおう。資料P7 ・各社の作業計画書を見てもらい、立入禁止、誘導者の配置が描かれているか確認。 → 描かれていたら、適当なところか？ 実際出来ているか、危険性等を再認識した上で、今後どうするかをG討議 	
30min	<p>5 締め</p> <p>今後、巡視の際に立入禁止措置などをチェックしていくことを伝える。 監督者として、協力できることを伝え、要望があれば聞く。 大事なポイントを繰り返す</p>	

重機使用
会社も重機
より、日常的に
使っている
からか、それ以外

3分

3分 4分

3分

4分

これは
言いたい

大丈夫と
思ったから
・接近したから
悪い意見は
環境
↑
人が原因は
根本解決に
ならない

40分 かった

重機の危険を知ろう

重機の種類

今、現場で使用している機械は何かありますか？○で囲う（自社以外のも含む）

安衛令 別表第七 建設機械(第十条、第十三条、第二十条関係)

整地・運搬・積込み用機械

ブルドーザー、モーターグレーダー、トラクター・シヨベル、すり積機
スケーパー、スクレープ・ドーザー等

掘削用機械

パワー・シヨベル、ドラグ・シヨベル、ドラグライン、クラムシエル、バケット掘削機
トレンチヤー等 （いわゆるバンカホー）

基礎工事用機械

くい打機、くい抜機、アース・ドリル、リバーヌ・サーキュレーシヨンドリル、せん孔機
（チェーンピングマシンに限る。）、アース・オーガー、ペーパー・ドリル・マシン等

締固め用機械

ローラー等

コンクリート打設用機械

コンクリートポンプ車等

解体用機械

ブレーカー等

重機（特に車両系建設機械）はなぜ危険？

• これらの重機事故が起こると、どうなるのでしょうか？

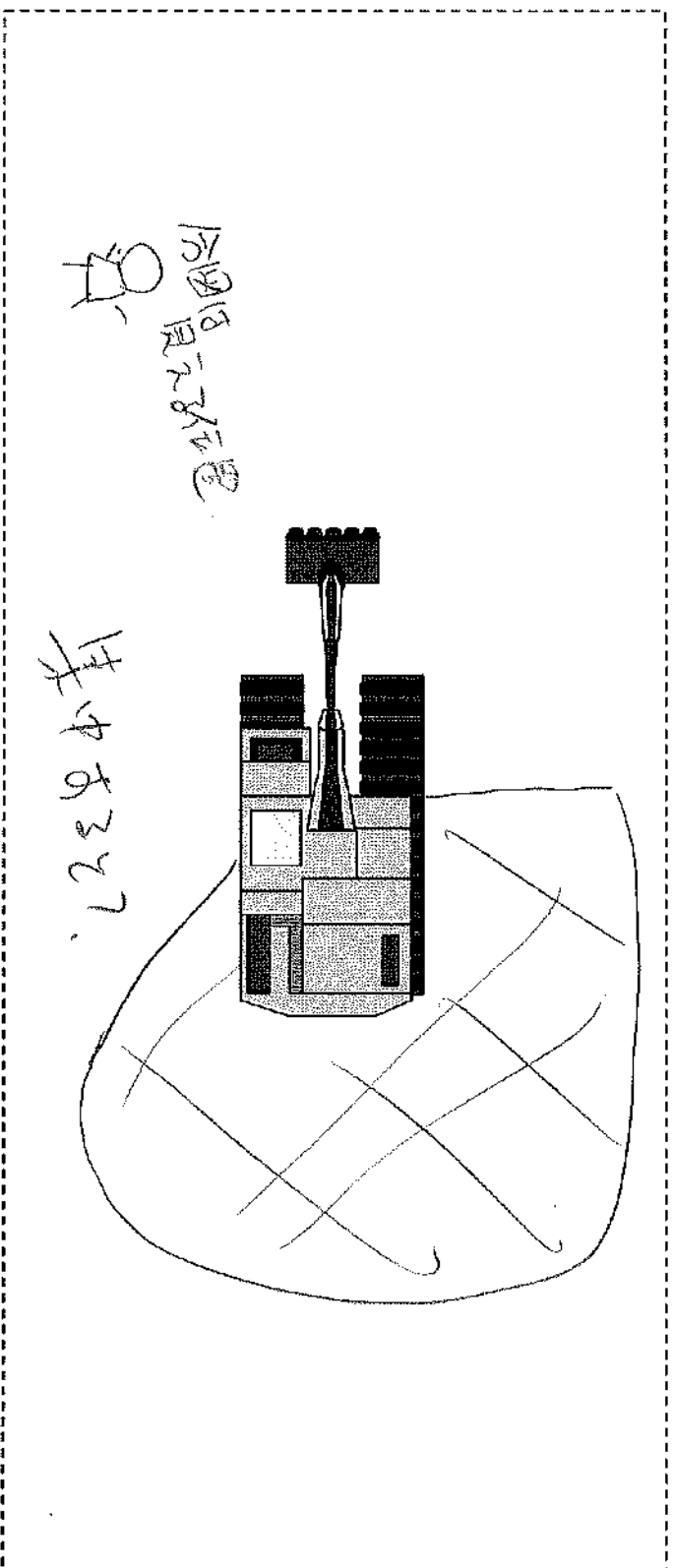
轢かれると？	↓	転倒
車体や旋回体（ビケット等）に激突されると？	↓	飛ばされる 転倒、骨折する。
車体と建物などの間に挟まれると？	↓	圧迫、転倒

• なぜ、接近してしまうのか話し合ってみましょう

見てない。聞かない。ハハハハ、

死角はどどこか

OPから死角になる範囲を描き込みましょう



重機の接近を防ぐには

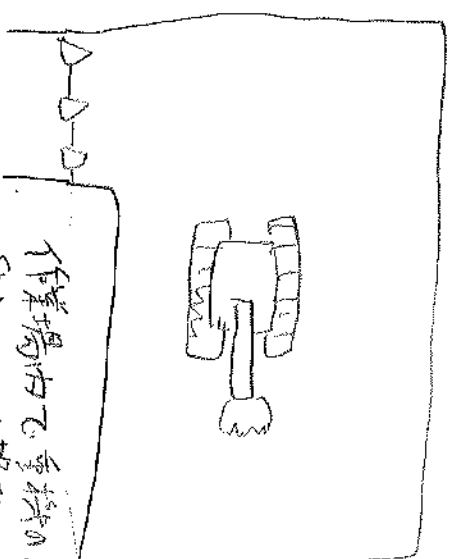
- 主に次の対策が重要です。

立入禁止

接近しなければ、ひかれません。作業範囲は立入禁止のバリケードで囲います。ただし、重機の単独作業で、他の人が近づかない場合は、作業エリア入口に立入禁止を表示します。

合図

接近する際には、OPに作業を停止させる必要があります。そのためにグレーパーなどの合図を行います。合図者・誘導者がいる場合は、合図者・誘導者に重機作業停止の合図をもらいます。グレーパーだけでなく、無線で合図するもの有効です。



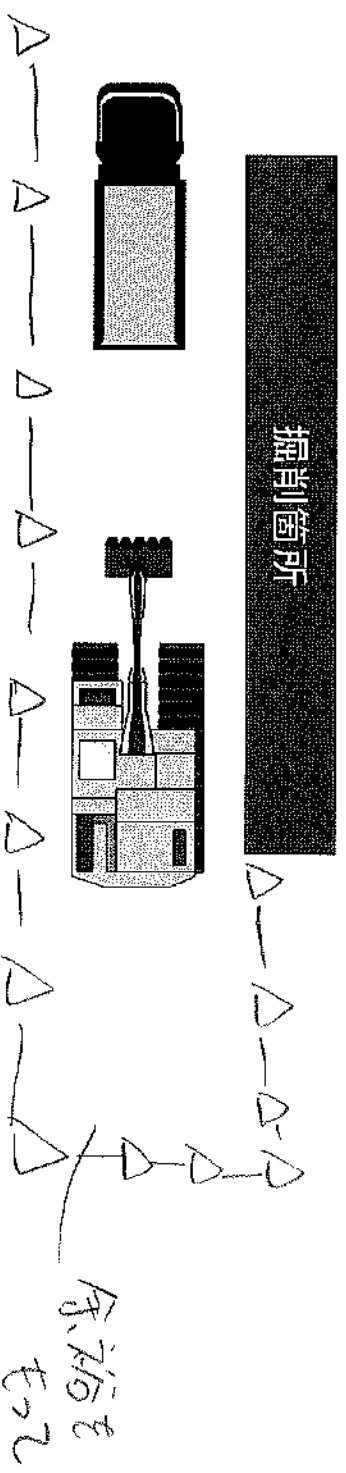
作業場内で重機の
進入口は1箇所とする
場合は入口封鎖のバリケード

合図は取角で
行うことも意味がない。

合図、誘導者は
バリケードで明示、

立入禁止範囲はどこか

- 重機作業を行に当たって、立入禁止範囲と合図者の位置を描き込みましょう。



- 今後、重機作業ではどのようなことを注意していきますか？

- 、立入禁止してから作業する
- 、ケーブル-巻込
- 、立入禁止範囲にミスない
- 、死角に入らない